

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

1月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 17,167件（前月比6.8、前年比1.2）でした。前月比は6.8と著しく増加しています。前年比は1.2であり、過去3シーズンで最多となっています。2017/18シーズンは1月がピークでしたが、2016/2017シーズンは2月がピークでした。今シーズンもさらに増加する可能性があるため、今後の発生動向に特に注意が必要です。年齢別にみると20才未満が62.6%、20才～60歳未満が25.3%、60才以上が12.1%を占めています。県下全域で高い値となっています。

小児科定点

（全体傾向）

20,486件（前月比3.3、前年比1.2）であり、インフルエンザ17,167件（前月比6.8、前年比1.2）が大きく占めています。次に、感染性胃腸炎2,042件（前月比0.9、前年比1.6）が多くなっています。伝染性紅斑39件（前月比1.5、前年比13.0）と前年比が著しく高くなっており、今後の発生動向に注意が必要です。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 137件（前月比1.4、前年比2.6）と昨年の9月をピークとして、以後は12月まで連続して減少しましたが、1月は増加に転じています。前年比も2.6と増加しており、今後の発生動向に注意が必要です。菊池(9.4)、宇城(7.3)が高くなっています。
2. 咽頭結膜熱 : 125件（前月比1.1、前年比1.2）でした。昨年は7月から10月まで47～60件で推移していましたが、11月から1月にかけては増加し、110～125件で推移しています。6ヶ月～2才未満が64.8%を占めています。菊池(8.0)、有明(7.8)が高くなっています。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 426件（前月比0.9、前年比2.1）でした。11月をピークとして、以後は1月まで連続して減少しています。前年比は2.1であり、例年より高い値で推移しています。宇城(20.3)、菊池(14.6)、有明(11.8)が特に高くなっています。
4. 感染性胃腸炎 : 2,042件（前月比0.9、前年比1.6）でした。昨年の12月がピーク(2,333件)として、11月から1月にかけては高い値(2,042～2,333件)で推移しています。例年並みで推移しています。山鹿(93.0)、有明(85.0)が特に高くなっています。
5. 水痘 : 96件（前月比0.9、前年比1.5）でした。昨年は12月がピーク(109件)でしたが、それに次ぐ値となっています。前年比も1.5と増加しています。4才以上が69.8%を占めています。年長児への予防接種の啓発が必要と考えます。
6. 手足口病 : 50件（前月比0.3、前年比0.7）でした。昨年は6月がピークでした。以後は例年なみに減少しています。
7. 伝染性紅斑 : 39件（前月比1.5、前年比13.0）でした。11月から連続して増加しています。前年比が13.0と著しく高くなっており、今後の発生状況に特に注意が必要です。山鹿(3.0)、有明(2.2)が高くなっています。
8. 突発性発疹 : 138件（前月比1.3、前年比1.3）。前月比、前年比とも大きな変化はなく、例年と同様に推移しているようです。
9. ヘルパンギーナ : 6件（前月比0.1、前年比0.4）でした。昨年の8月をピークとして、例年通りに連続して減少しています。

10. 流行性耳下腺炎 : 30件(前月比0.8, 前年比1.7)でした。前年比は1.7であり、1月は過去3年間では最も高くなっています。3才~8才未満が76.7%を占めています。山鹿(3.0)が高くなっています。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数81件(前月比1.3、前年同月2.1)と増加しています。熊本66件、菊池7件、有明8件の報告です。年齢別では20~49歳に多発していますが、60歳代にもう一つ山があります。乳幼児層には目立つ発症はありません。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数54件(前月比1.0、前年比1.2)で、前月比は同数で、前年比は増加しています。男女別は、男性28件、女性26件で、男性に多く見られます。年齢別は、男性は15~59歳に見られ、女性は15~39歳に見られます。地域別は、熊本が33件、次いで有明10件、御船6件、八代3件、宇城2件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数35件(前月比1.4、前年比1.8)で前月比、前年比ともに増加しています。男女別は、男性25件、女性10件で、男性に多くみられます。年齢別は、男性は25~70歳以上で幅広い年齢に多く見られ、女性は15~70歳以上で幅広い年齢に多く見られます。地域別は、熊本22件、次いで八代6件、宇城5件、菊池、御船各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数5件(前月比0.6、前年比0.5)で、前月比、前年比ともに減少しています。男女別は、男性4件、女性1件で、男性に多くみられます。年齢別は、男性は20~34歳に見られ、女性は55~59歳に見られます。地域別は熊本3件、次いで八代、宇城各1件でした。
4. 淋菌感染症 :
報告数18件(前月比1.6、前年比0.9)で、前月比は増加し、前年比は減少しています。男女別は、男性15件、女性3件で男性に多く見られます。年齢別は、男性は20~54歳に見られ、女性は25~39歳に見られます。地域別は、熊本15件、次いで有明3件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :
報告数は19件(前月比:0.9、前年同月比:0.8、男女比:6/13)で横向きに推移しています。熊本地区(9)、人吉地区(4)、山鹿・阿蘇地区(2)、水俣・天草地区(1)と広範囲に認められます。年齢分布としては60~64歳(2)、65~69歳(4)、70歳以上(12)と高齢者で集中して多く検出されました。
▼例年並みの報告数を示しています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 :
報告数は4件(前月比:0.7、前年同月比:0.6、男女比:3/1)で減少しています。熊本地区(3)、有明地区(1)でした。年齢分布としては全例70歳以上(4)でした。
▼例年に比べ横向き減少に転じています。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-、男女比：-/-）で報告はありませんでした。
▼引き続きH30年4月(1)以降、報告はありません。

（週報分）

1. 細菌性髄膜炎： 報告数は1件（前月比：1.0、前年同月比：0.5）で横向きに推移しています。熊本地区(1)で、年齢分布としては70歳以上(1)でした。
▼例年並みで横向きに推移していますが、今後の推移に留意が必要です。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数は2件（前月比：2.0、前年同月比：0.7）でやや増加しています。熊本・八代地区(1)でした。年齢分布は60-64歳(1)、70歳以上(1)でした。
▼昨年より少ない報告数ですが増加に転じています。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数は8件（前月比：4.0、前年同月比：2.0）で増加しています。阿蘇地区(4)、熊本地区(3)、人吉地区(1)でした。年齢分布は5-9歳(2)、1-4歳(1)、10-14歳(1)、25-29歳(1)、50-54歳(1)、65-69歳(1)、70歳以上(1)と全年齢層で幅広く検出されました。
▼昨年に比べてやや多い報告数で、今後の推移に留意が必要です。
4. クラミジア肺炎： 報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。
▼引き続き報告はありません。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：
報告数は3件（前月比：-、前年同月比：-）で増加に転じています。熊本地区(3)で、年齢分布としては0歳(1)、1-4歳(1)、5-9歳(1)でした。
▼昨年より多い報告数で、今後の推移に留意が必要です。

届け出対象感染症

1類感染症	： ありませんでした。	
2類感染症	： 結核	14件
3類感染症	： ありませんでした。	
4類感染症	： レジオネラ症	2件
5類感染症	： アメーバ赤痢	1件
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1件
	急性脳炎	1件
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
	梅毒	11件
	破傷風	1件
	百日咳	5件
	風しん	1件